

# たもんじ 交流農園便い Vol.93

2025年12月号



“てらたま農園部から”

第48回 ~2025年の活動を振り返って~



毎週日曜日の農園活動をしていると季節の移り変わり、旬の野菜の成長、美味しさをダイレクトに感じることができます。それはこの活動をしていなければ味わえないこと。一見、同じことの繰り返しと思いきや前回の成功と失敗から学びプラスアップする探究心があるのが農園部の仲間達。けれども純粹に子供のように楽しむことも忘れない。

今年もたくさんの発見と喜びがありました。年初は踏み込み温床作りから始まり、1月末から2月初めに寺島なすの種を植えました。そして今年は初めて自分たちで寺島なすの接ぎ木に挑戦したのですが、これには戦慄しました。夏はグリーンカーテンのすいかが、苦戦する寺島なすをよそに大成功(笑)。

寺島なすの菌ちゃん畝栽培が3年目となりました。真夏の高温乾燥が年々過酷になり枯れてしまう現象が多くなっていたところ、高温乾燥に対応するべく進化した菌ちゃん畝作りの情報を得ました。これは朗報です！また、踏み込み温床作りも毎年発酵が上手くいかずにいたので、来年はやり方を変えてみようと思います。様々な活動のなかでわからないことがあります。それをみんなで一緒に学んだり、考えたり。農園で出会う自然の営みに来年もワクワクドキドキの予感！畑は、いつでも新しい“はじめて”が待っています。あなたも一緒にやってみませんか！(気になった方はぜひ今年の「てらたま農園部から」を読み返してね。Instagram「アカウント名 tamonji\_nouen」でも毎週の活動の様子を投稿しています)。



はじめました!!

第8回 小林さん(区画10-21)の場合

この年になって、「新しいことを始めました！」は、心当たりがなく、どうしようかなっと思っておりましたが、今年になって、ぬる～く続いていることがありました。「道の駅巡り」を始めました！

もともと、旅行先で道の駅を探して行くことはあったのですが、今は道の駅を目的地にしてドライブを楽しんでいます。きっかけは、今年入ってからの世間的な米問題に始まり、本格的な我が家のコメ問題です。そこで、関東圏内の道の駅へ米探しに行ってきました。はじめは、3,4件を1日に回っていましたが、今は1箇所決めたらそこの観光と食事、近くの直売所やスーパーも散策しています。結果、米だけでなく道の駅巡り後の1週間は野菜も充実して食卓が潤うし、旅行先でのご褒美ランチ、プチ旅行へ行ったおかげのリフ



レッシュ効果など我が家のお米が潤うだけでなくかなりの満喫感を得て次へ続くといった流れができています。

道の駅や直売所などへ行くと、時期の野菜の苗も入手できて1か月後、3ヶ月後の収穫の楽しみ、畑での楽しみも増えてきています。お米を買うという目的もあるので、今は大体茨城県へ行っていますが、どこかいい道の駅をご存じであればぜひ教えてください。



道の駅巡りの途中で寄った笠間稻荷神社

## 視察記録③ わんぱく天国 (わん天)

てらたま協議会 牛久 光次



わんぱく天国のシンボル『ジャンポゲート』

墨田区立押上公園にある『わんぱく天国』をご存じでしょうか。子どもたちが自然と触れ合いながら自由に遊べるプレイパーク（冒険遊び場）として、1987年に開園しました。一般的な公園では禁止事項が多い中、ここでは「木を使う」「作る」「失敗する」「少し危険を感じながら挑戦する」といった、子どもの主体性を尊重する遊びをコンセプトに、五感を育む学びの場にもなっています。その見守りとしてプレイリーダーが常駐しているのが特徴です。

そんな“わん天”では、遊びと食育を組み合わせた「みんなの畑」という取り組みが行われています。中心となって活動しているのは、千葉大学大学院環境デザイン研究室（原廣道先生）の院生である萩原朱莉さんです。萩原さんがたもんじ交流農園を訪れてくれたことをきっかけに、今

年は寺島なすの苗も「みんなの畑」に植えられました。

たもんじ交流農園では、寺島なすの苗のほか、KURAMAE モデル堆肥の提供やチッパーの貸し出しなどで協力しています。古竹や葦簀の糸をほぐしてチッパーにかけ、畑の周囲に敷いたり、水路をつくったりと、畑づくりそのものが子どもたちの土いじり体験の場になっています。

## わんぱくフェスティバル～食と遊びの場面

今年10/11には、久しぶりに「わんぱくフェスティバル」が開催されると聞き、お手伝いを兼ねて訪問してきました。「みんなの畑」の子どもたちが考えた寺島なすピザのレシピが披露され、当日は来場した子どもたちが生地からこねこねして伸ばし、2種類のソースから選んでトッピングをしていました。そんなお子さんの姿を見守る親御さんの表情は、笑顔がいっぱいです。そして名前を書いたホイルをピザ窯に入れて焼き上りを楽しみに、今度は棒パンを焚火でクルクル回して焦げ目がついたらパクリ。焼き上がった寺島なすのピザを食べる姿もとても微笑ましかったです。火を使っても良い公園の醍醐味だと思います。

園内には、わん天のこれまでの成り立ちの歴史を刻んだ写真と説明版が掲示されていました。そこには、子どもの頃にここで遊び、現在はプレーリーダーとして活躍している方の紹介もあり、長年にわたって地域に愛されてきた場所であることが良くわかります。実際にその方も当日いらしており、SSK（主に移動遊び場を提供する団体）のメンバーとして、毎週水曜日の午後に千葉大学院生とともに子ども達と一緒に「みんなの畑」の活動を続いているそうです。

## 公共空間×農×すみ里プロジェクト



四方を板で囲った2区画がみんなの畑

そんな公共空間の一角に、野菜づくりと食を通じた小さなコミュニティが生まれている——その姿に、私たちはたもんじ交流農園の活動と重なるものを感じました。都市のまちなかに「農のある暮らし」があることの魅力は大きく、農体験を希望して区画の空きを待つ方も少なくありません。

たもんじ交流農園を創り出した私たちだからこそ、墨田区全域に農体験のできる場を広げていくことが出来るのではないか。とはいってもなかなか広大な農地を新たに確保するのは容易ではありません。だったら小さなスペースでも農体験のできるネットワークですみだ全域を里地里山のようにしたいと、私たちてらたまは「すみ里プロジェクト」をスタートさせました。そこには単なる“農業体験”を超えた、暮らし・人・地域を結び直す動きがあります。

これまで公立公園では、食べられる野菜や果物を植えることがタブー視されてきました。しかし、暮らしのすぐそばに点在する公園こそ、実は最も身近で豊かな農体験の場になり得ます。そんな公園の農的活用の道を切り開こうと、私たちはまちづくりの信念をもって挑戦を続けています。



住所は、墨田区押上一丁目 47 番 8 号



チッパーの操作が土いじり体験につながっている



今年の夏は寺島なすも育てていました

## リニューアル計画・未来

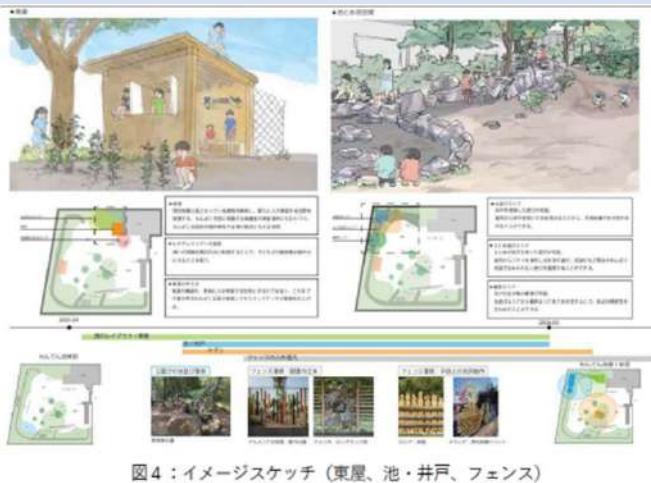


図4：イメージスケッチ（東屋・池・井戸、フェンス）

実はその歴史あるわん天も老朽化が進み、リニューアル計画が進んでいます。その監修を務める原廣道教授からお声がけいただき、11/26には途中経過の説明会を兼ねた「シン・ワン天展」を拝見してきました。当初のコンセプトを大切にしながら、「みんなの畑」の継続や、自然を活かした遊びをふんだんに盛り込んだ計画となっています。原先生には事前にたもんじ交流農園も見学していただき、未完成の状態から自ら手を加え、創り出していく過程こそが、子どもたちの成長や創造性を掻き立てる教育につながることを、実感してくださいました。

これから進む、そしてこれから長く新たな魅力を生み出していく「新・わんぱく天国（シン・わん天）」のリニューアルに、たもんじ交流農園のできるまでの歩みと、これから活動を参考にして頂けたら幸いで、今後も協力し合いながら歩んでいけることを、心から楽しみにしています。

わんぱく天国が「すみ里」の一つになりそうで、今からワクワクしています。



プレイヤーのきくちさん、ふるさわさん  
お話を聞かせて頂き、有難うございました

## すみ里キャラバン～まちに、里地里山の芽を届けにゆく

すみだに里地里山の風景を増やしていく——そんな願いを込めた「すみ里プロジェクト」。その一環として、たもんじ交流農園や、すみ里プロジェクトの仲間たち『里のたみ』は、農園の外へと一歩ふみ出し、区内のさまざまな地域で“小さな里山の芽”を育てるお手伝いをしています。“まちに種をまくと、心にも芽が出る”…そんな実感をみなさんと共有できれば幸いです。次の機会、みなさんも『里のたみ』の一員になって、すみ里キャラバンに参加しませんか。

### 里の芽 01 キラキラ橋商店街・ピンポンプラット

10/25(土) 卓球台のある賑わい空間を彩るために花壇づくりをお手伝いしました。街角に花や草の色が差すと、人の足どりもやわらぎます。



### 里の芽 02 東白鬚公園・バイオネスト

11/3(月祝) 自然木を積み上げてつくるバイオネスト(自然堆肥)の造成をサポートしました。森の循環を小さく再現していることを実感できます。



### 里の芽 03 中之郷児童遊園 11/15(土)



寺島茄子之介 Tシャツと老子遍路一哲さんの「なすがままに」の販売をお手伝い。地域の方々との温かな交流が広がりました。

### 里の芽 04 ノウドひきふね 11/16(日) ノウ



ド園芸部が野菜づくりに挑戦できるレイズドベッドづくりワークショップに参加。自分たちの手で畠の“はじまり”を実感しました。

## 干し柿作りワークショップ開催とその後

11/30(日)、たもんじ交流農園では恒例の「干し柿作りワークショップ」を開催。まずは高い高い柿の枝からの収穫作業。鳥に食べ散らかされる前に丁寧に採りきることは、多聞寺さまから託された大切な任務です。三脚を載せたトラックを持ち込み、今年もたくさんの渋柿が集まりました。



続くワークショップでは、皮をむき、紐で結わえ、風通しのよい場所に吊るす基本の手順を実践。干している間は毎日そっと揉んであげることで、渋みが抜け、甘みが増していきます。これは干すことでの水分が飛び、柿の中のタンニンが不溶化して渋みを感じなくなるため。さらに表面に白く浮く“柿霜”は、糖分がにじみ出て結晶化したもの。手をかけつつも、最後は自然の力にゆっくり委ねることで、極上の干し柿が生まれます。(ところがその後、鳥さんのお食事になつたため、農園からは外しみなさんのご自宅で干して頂きました)



# はじめました!!

## 第9回 菊池さん(区画10-22)の場合



はじめましたと言われても、最近はじめたことはこれと言ってないので、これからはじめたいことについて書いてみます。

だんだん年齢を重ねてくると、新しいことに出会う機会が減ってきますし、新しいことに出会わなくとも生活できていくのではないかと思います。でも、ある方の話によれば、新しいことをすることは人生を楽しむのによいことの一つだそうです。新しいことをすると、新しい知識を得たり、そこからさらに興味を広げたりが出来るから ということでした。

ただ、まったく新しくことではなくても、昔やっていたけど、最近あまりやってないこともあるなと思いました。そういう意味合いで棚卸しをして、あらためてはじめたいことを考えてみました。そして、書道に思い当りました。皆さんも、小中学生のころは学校の授業でやったことがあるかもしれません。ただし、その後はあまり触れる機会がない方も多いのではないでしょうか。私も高校で書道の授業で習ったのを最後に、その後はほとんど触れる機会がありませんでした。

今回考える機会をいただいたので、あらためてはじめてみたいと思います。古典の臨書はなかなかできなかったので、楷書の古典である九成宮醴泉銘にでもチャレンジしていきたいです。(編集部解説: 九成宮醴泉銘(きゅうせいきゅう・れいせんめい) 約1400年前、中国・唐代の名書家・歐陽詢による碑文で、楷書の最高峰とされる古典。書道学習者が必ず一度は臨書する定番の作品)。



## シリーズ『江戸の食生活と野菜たち』～第10回～ 農園アドバイザー水口均



三河島菜(荒川区公式サイトより)

江戸東京野菜には里帰りしたものも多くありますが、三河島菜はその中でも特徴的です。もともと江戸時代には結球する白菜は無く、ツケナと呼ばれる日結球のアブラナ科の漬物用の野菜が多くありました。実は小松菜もツケナの類なので昔は大きく育てて(30cm位)漬物で食べていました。三河島菜はさらに大きく60cm以上の大きさで食べられていたようです。昭和初期には一度途絶えましたが、参勤交代の際に種が持ち帰られ「仙台芭蕉(註)菜」として宮城県の伝統野菜として残っていました(註:芭蕉二バナナニ大きな葉)。東京都の農業試験場に残されていた細密画では亀戸大根と同じ白軸の絵が残されていましたが、「仙台芭蕉菜」は青軸でした。後に文献で江戸から伝わったものとして確認されたため、近年里帰り復活させることができた野菜です。



仙台芭蕉菜(みんなの野菜大辞典より)



2024/12 たもんじ音楽隊

**12/28(日)10:00～てらたま・たもんじ納会**～新米もち米でのお餅つきに、あんこ・みたらし・大根おろし・お雑煮と味もいろいろ。たもんじ音楽隊(今回はサックスも乱入か!?)の演奏で懐かしい唄やクリスマスソングを大合唱し、最後は後出しじゃんけん大会も! 申込不要、気軽にご参加ください。(飲み物各自持参)

**12/28(日)13:00～「まな防災! 世代をこえてつなえよう!** (梅若橋コミュニティセンター&東白鬚公園)皆川さんの親子あそび「元気いっぱい」協力、納会終了後GO!

**2026/1/4(日)「踊る隅田川七福神! “歩いて笑って踊れば、福がやってくる”」**

**10:00 たもんじ交流農園集合～** “笑う門には福来る”。“歩いて笑って踊れば福が来る”を合言葉に、隅田川七福神ゆかりの地を巡る新春開運ツアー。締めは錦糸公園での「第11回すみだ輪おどり 新春踊り尽くし!」に合流し、「寺島茄子之介音頭」で初踊りを楽しみます。10:10 多聞寺(毘沙門天)～11:00 白鬚神社(寿老人)～11:30 向島百花園(福禄寿)～12:30 長命寺(弁財天)～12:50 弘福寺(布袋尊)～13:10 三囲神社(恵比寿・大黒天) 13:30 頃バス(草39)または押上駅から半蔵門線で移動、**14:00 ひがしんアリーナ** 「寺島茄子之介音頭」で初踊り。水口アドバイザーご指導日は、未定です。



2025/1 七福神巡り



たもんじ交流農園便り  
No.93般 2025.12.27発行  
題字 田村風來門  
編集 末林和之



てらたま協議会  
(NPO法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)  
問い合わせ先 小川 剛(080-3421-3115)  
▲セブン-イレブン記念財団 (2018年2020年に助成金を頂きました)

